



## 国家戦略特区の活用などによるエリアマネジメントの新たな展開 ～We Love 天神協議会の取り組み～

We Love 天神協議会  
事務局長 飯田 浩之

### 1.We Love 天神協議会の概要

We Love 天神協議会は 2006 年 4 月に設立された福岡市天神のまちづくり団体(エリアマネジメント団体)です。九州最大の繁華街である福岡・天神エリアが将来にわたり賑わい、さらに明るく元気で魅力的な街になることを目的として設立されました。その後、11 年間の間、さまざまな活動を行ってきました。設立当時の参加会員は 76 社・団体でしたが、現在は 130 社・団体まで広がってきました。会員は、天神地区の商業施設を中心に多様な業種の企業、そして福岡市役所や福岡県警中央警察署、地域の自治協議会、大学などで構成しており、まさに地域をあげての活動となっています。

We Love 天神協議会設立から 2 年をかけて、この街の目指す姿とそれに向かうアクションプランを描いた「天神まちづくりガイドライン」を策定いたしました。2008 年 4 月に策定されたこのガイドラインで、私たちはこの街の目標像を設定しています。それは、①上質に洗練され、いつも賑わいがある『歩いて楽しいまち』、②環境にやさしく安全安心、だから誰もが『心地よく快適に過ごせるまち』、③変化に対応し、アジアの中で『持続的に発展するまち』というものです。この目標像に向かうため、まさに「人を主役としたまちづくり」に地域一体となって取り組んでいます。

組織運営といたしましては、すべての会員を招集する総会を年に 1 回、5 月末に開催します。ここで、前年度の事業実施報告と収支決算および新年度の事業計画と収支予算を承認いただきます。また、任期を 1 年とする役員改選も総会で行います。組織構造としまして、総会の下に理事会を設置しています。理事会は年に 4 回程度の開催で重要な案件につきまして議論し、意思決定を行います。理事会は主要会員のトップ 15 名で構成しています。事業の具体的な施策につきましては、理事会の下に位置付ける幹事会で協議いたします。幹事会は主要会員の部長クラス 16 名で構成しており、毎月の定例開催を行っています。事務局には常駐メンバーが 7 名と非常駐メンバーが 4 名います。常駐メンバーは西日本鉄道㈱が大半を占め、いまは岩田屋三越㈱からの出向者もいます。非常勤メンバーは福岡市中央区、および天神で商業施設を運営する三菱地所リアルマネジメント㈱で構成されます。

年間予算は総額で 2.3 億円程度。そのうち、会費収入が 2000 万円程度です。会費収入は、年会費と自治活動費に分けられます。年会費は、大規模な商業施設を運営する事業者や地権者など総会での意思決定権限を持つ”地区会員”が年間 5 万円、その他一般企業や個人、非営利団体などの”一般会員”が年間 3 万円となっています。自治活動費はニューヨークの BID を参考にして各事業者の規模に応じた負担を設定しており、地区会員は登記簿床面積に応じて 10 万円から 150 万円までの負担をお願いしています。会費収入のほかには、福岡市からの補助金(行政負担金)が 1200 万円です。また、自主財源が 250 万円程度。ここまでを一般財源として、主にパブリックな事業に充当しています。一般財源のほかに特定財源として、賑わい事業を実施するにあたり、その主旨と合わせて費用負担をお願いする特定事業負担金があり、1.9 億円程度となっています。

## 2.公共空間の賑わいづくり

『歩いて楽しいまち』を目指す We Love 天神協議会の最重要テーマは、公共空間の賑わいづくりになります。この場合の公共空間とは公園、広場、公開空地そして道路になります。こうした公共空間に賑わいがあり、それが連続することで市民や観光客の来街を呼び込み、回遊性を高めることになります。

私たちは年間を通じて、季節ごとにテーマを設定した賑わい事業、集客イベントを行っています。夏は「子ども・ファミリー」がテーマです。夏休み期間中に「こどもまるごとワンダーランド」と称して、①天神ワーク体験、②天神涼園地、③天神キャンプという 3 つの企画を実施しています。①天神ワーク体験は、We Love 天神協



天神ワーク体験

議会の会員をはじめとする企業や施設の協力のもと小学生を対象に実施する職業体験プログラムです。商業施設のインフォメーションやドーナツ屋さんの店員、テレビ局のレポーターなど様々な業種のいろんな職種を体験できるもの



天神涼園地

で、毎年多くの小学生にご参加いただいています。昨年は、募集 526 名に対し 5,416 名の応募となり、10 倍を超える競争率となりました。今後、より多くの子どもたちを受け入れるために募集枠の大幅拡大が課題となっています。ワーク体験では、参加されたお子さまに「地域通貨券」をお給料としてお渡ししています。これは天神地区の店舗で使えるクーポンで、地域の消費活性化の側面も持ちます。②天神涼園地は、We Love 天神協議会の賑わい事業のひとつの大きな拠点である福岡市役所西側ふれあい広場にて、毎年 7 月下旬から 8 月にかけて開催している”水とミストの遊園地”です。天神エリアには大型の商業施設がいくつもあります。子どもが遊べる施設はほとんどないという問題点があります。そのため、ファミリー層の来街促進ということが大きな課題になっています。週末にファミリーで郊外へ出向く流れを都心部に取り込めないかという課題です。夏休み期間中に子どもたちが一日中涼しく遊び楽しめる場所をつくらうということで 5 年前から開催しており、毎年多くの子どもたちで賑わっています (H28 年約 4 万人)。会場にはジャンボスライダーや巨大水砲などを設置し、幼児から小学生まで楽しめる空間となっています。子どもの頃に天神

で遊んだ思い出を将来のこの街への憧れにつなげたいという想いで展開しています。市役所前の広場でこのような賑わいを展開できている例は全国的にもめずらしいと思います。なお、この市役所前広場は、We Love 天神協議会を含む共同体で市役所から年間契約で借り受けているもので、We Love 天神協議会の主催イベントのほか他事業者にも貸し出し、街の賑わいの空間となっています。③天神キャンプは昨年始めて開催した都心部キャンプです。夜中や早朝未明といった普段は見ることのない街の姿を見てもらい、別の観点からの街の魅力を発信しようというものです。これも市役所前広場にファミリー向けキャンプテントを張り、そこを拠点に街に繰り出します。水上バス観光などの夜の街探検や天体観測、街散策、食事の提供、スイカ割りなどのプログラムを用意し、ご参加のファミリーにたいへん好評をいただいています。



天神キャンプ

秋のテーマは「音楽」です。福岡は数多くのミュージシャン、アーティストを全国に輩出しています。また、福岡市は人口当たりのライブハウス数が日本一の都市です。こうした背景で、福岡が将来にわたって”音楽都市”であり続けることをめざして、さらに音楽産業の振興をはかって、音楽イベントの展開を福岡市とともに取り組んでいます。音楽を楽しみたいひと、聴きたいひと、演奏したいひと、それを支える舞台や技術などに携わりたいひとなど、いろんな音楽に関わるひとたちが天神の街をめざすという姿を描いて、音楽事業を行っています。まずは15年前から9月の



ミュージックシティ天神

第4週の週末に開催している「ミュージックシティ天神」。”街中に音楽があふれる2日間”として福岡市役所西側ふれあい広場をメインステージとして、天神エリアに多数のステージをつくり、多くのアーティストによるライブを展開しています(去年は14会場、のべ130組のアーティスト)。アーティストは、プロのミュージシャンもいますが、多くは公募によりアマチュアのミュージシャンに出演していただいています。その一部は、天神のど真ん中である”きらめき通り”を歩行者天国にして、路上ライブを実施しています。約17万人のご来場のみなさまにお楽しみいただきました。福岡には9



福岡ミュージックマンス

月にいくつもの音楽フェスがあります。第一週の週末に糸島の海水浴場で開催される、20数年前から開催されている「サンセットライブ」。第2週には中洲地区一帯で開催の「中洲JAZZ」と博多駅前の「九州ゴスペルフェスティバル」。第3週はキャナルシティ博多の「アジア・ミュージックファウンド」、そして第4週の「ミュージックシティ天神」と9月は毎週末に音楽フェスが開催されます。もちろん、各イベントの主催者はそれぞれ異なりますが、それらのイベントが連携し、共同プロモーションを行うことで、広域に「音楽都市フクオカ」を発信し、九州はもちろん国内、そしてアジア

からも来街者を呼び込もうという主旨で「福岡ミュージックマンス」を立ち上げました。We Love 天神協議会はその事務局を担っています。3回目となる去年は、共同ポスターの作成・掲出に加えて、都心で廃校となった旧大名小学校のグラウンドと体育館で独自の音楽イベントを開催しました。熊本地震復興支援イベント「ONE KYUSHU(九州はひとつ)」です。福岡出身の鮎川誠さんや藤井フミヤさんなど多彩なアーティストに出演いただき、チャリティライブやチャリティオークション、チャリティ映画鑑賞会などを開催しました。当日の収益約200万円を熊本県、大分県に復興支援として寄付させていただきました。

冬のテーマは、もちろん「クリスマス」です。クリスマスシーズンは、年間のなかでも街が一番美しく輝く季節です。そして、商業集積地である天神エリアにとって、クリスマスは最大の商機となります。この街に多くの来街者を呼び込みたい時期になります。We Love 天神協議会にとってもこのクリスマス企画が年間最大の事業になります。年間2.3億円の全体予算のうち約半分をクリスマス企画として使っています。「天神のクリスマスへ行こう」という企画名称で事業展開していますが、①街路樹イルミネーション、②天神ヒカリスクエア、③天神クリスマスマー



街路樹イルミネーション

ケットの 3 つで構成されます。①街路樹イルミネーションは天神エリアの主要ストリートである渡辺通りやきらめき通りの街路樹で展開する、煌びやかなシャンパンゴールドの光の装飾です。毎年 11 月上旬から 1 月上旬までイルミネーションが街を美しく輝かせ、天神に来街のみなさまをお迎えいたします。②天神ヒカリスクエアは、市役所前広場と並び天神エリアの賑わいの拠点のひとつである警固(けご)公園でのイルミネーション装飾です。さらに、昨年は初の試みとなる本物の氷を使ったアイススケートリンクをメインコンテンツとして展開。連日多くの家族連れで賑わいました。49 日の開催で約 130 万人のご来園がありました。③天神クリスマスマーケットは市役所前広場で 2 年前から展開しています。”本場ヨーロッパのクリスマス”の空間演出で、ホットワインやソーセージの飲食販売、クリスマス雑貨の販売、そして多彩なステージイベントを展開し、61 日間で約 120 万人もの方々にご来場いただきました。博多駅前のクリスマスマーケットとも連動し、「福岡クリスマスワールド」として、福岡の新しい風物詩をめざした地域全体での取り組みです。期間中は、公共交通機関でご来場の方にホットワインの割引券をもらえなくプレゼントするなど、天神ー博多間の回遊性向上にも努めました。



天神ヒカリスクエア



天神クリスマスマーケット

春は「ファッション」がテーマです。福岡全体のファッション販促キャンペーン「ファッションウィーク福岡」と連動し、きらめき通りでファッションをテーマとした歩行者天国を開催しました。地区の各商業施設と連携した路上ファッションショーを開催するなど話題を呼びました。行政とも共働り、ファッション産業の育成も目的としたイベントを開催しました。また、この春には現在進んでいる、天神地区がアジアの拠点都市としての役割・機能を高め、新たな空間と雇用を創出するプロジェクト「天神ビッグバン」を推進するプロジェクト「天神明治通りストリートガーデン」を開催しました。これは、天神地区の再開発エリアとなる明治通りを中心に開催される環境・文化芸術などの各イベントを連携することで、「文化創造都市」としての発信力を強化し、街の魅力向上をはかるとともにソフトプロジェクトとしての天神ビッグバンの推進に資することを目的に開催したものです。



路上ファッションショー

①「福博花しるべ事業」として、都心の魅力と回遊性の向上を目的として博多駅から天神、西の舞鶴公園を結ぶルートの色とりどりのチューリップで修景し、花のおもてなしをする事業で、福岡市を中心として主催しています。②「ho do(ホドゥー)」は、国家戦略特区道路占用事業として歩道空間を活用しイベントを開催することで、通りに賑わいを創出するとともに地域の回遊性を高めることを目的としたもので、歩道にお酒や軽食、雑貨を展開する店舗を設置し、賑わいをつくりました。沿道のビルを所有する西日本鉄道と福岡地所が主催しました。③「天神花あかり」は歩行空間の環境・アメニティ向上を目的としてパブリックアートを展開するものです。昨年に開業した水上公園にも光のアートを設置し、来街者の話題を呼びました。

### 3.国家戦略特区 道路占用事業 “きらめき通り歩行者天国「FUKUOKA STREET PARTY」”

We Love 天神協議会は平成 20 年に策定したガイドラインにおいて、天神と若者に人気の路面店が並ぶ大名エリアを結ぶ“きらめき通り”を「開放的な街並みのイベントと賑わいの遊歩道」と定義し、「歩行者空間の充実をはかる」としていました。こうしたなか、平成 26 年に国家戦略特区におきまして、福岡市は「グローバル創業雇用特区」に認定されました。創業を呼び込み、雇用を創出するには継続した街の賑わいが必要ということで、この天神の中心部のきらめき通り(約 180m)を歩行者道路占用化するいわゆる「エリアマネジメントに係る道路法の特例」が適用されることになりました。そして、その事業者として We Love 天神協議会が認定をいただきました。こうして、ガイドラインで謳っていた街の姿を国家戦略特区を活用して実現できる運びとなったのです。ただ、道路占用許可(道路法)と並びクリアしなければならない道路使用許可(道路交通法)のために行政と共にその後、警察協議を継続し、歩行者天国を同年 11 月に開催できることとなりました。きらめき通りはその両側に福岡の老舗百貨店「岩田屋」の本館と新館が並びます。その公開空地である広場と歩道を使ってイベントを開催する→大勢の来場者によって歩道だけでなく車道までも人があふれる可能性がある→危険回避のため自動車交通規制をかける、というロジックでの歩行者専用道路化です。つまり、ただの歩行者専用道路ではなく、イベントとしての歩行者天国という形での開催となりました。”天神ど真ん中のストリートがパーティー会場になる！”との触れ込みで、「FUKUOKA STREET PARTY」という副題をつけました。広場にステージを設営し、ミュージシャンやお笑いタレントのライブを開催、歩道には飲食店や協賛企業のブースを並べるといった空間の使い方会場レイアウトをつくりました。車道は、緊急車両通過の可能性もありモノは置かず、歩行者のための空間としました。それぞれイベントテーマを設け、これまでに 7 回の開催を行いました。地元テレビ局とのタイアップもあり、毎回たいへん多くの来場者で賑わいました。ガイドラインで描いた姿以上の賑わい空間となっています。今後も、開催頻度をこれまで以上に上げて、将来的には年間定期開催、そして恒常化へと目指していきたいと考えています。

#### ● 国家戦略特区道路占用事業 きらめき通り歩行者天国「FUKUOKA STREET PARTY」開催実績

	実施期間	時間帯	テーマ	連携イベント	来場者数
第 1 回	H26.11.22-24 (3 日間)	15-21 時	—		約 13 万人
第 2 回	H27.3.21 (1 日間)	15-21 時	ファッション	ファッションウィーク福岡	約 5 万人
第 3 回	H27.9.26-27 (2 日間)	12-18 時	音楽	ミュージックシティ天神	約 11 万人
第 4 回	H28.3.19-20 (2 日間)	12-18 時	ファッション	ファッションウィーク福岡	約 12 万人
第 5 回	H28.9.24-25 (2 日間)	12-18 時	音楽	ミュージックシティ天神	約 12 万人
第 6 回	H28.11.19-20 (2 日間)	12-18 時	ダンス	ふくこいアジア祭り	約 12 万人
第 7 回	H29.3.25-26 (2 日間)	12-18 時	ファッション	ファッションウィーク福岡	約 13 万人



FUKUOKA STREET PARTY

## 4.安全・安心に向けた取り組み

街に多くの人たちが集まり楽しみ憩う前提は、その街が安全・安心であることだと思っています。We Love 天神協議会では安全・安心に向けて様々な取り組みを行っています。毎月第4金曜日の夜間に、We Love 天神協議会では各会員や行政、警察、地域と一緒に天神・大名地区の防犯パトロールを継続して実施しています。また、毎月第1日曜日にはこれも行政、警察、自治協議会と一緒に落書き消しを行っています。また、We Love 天神協議会では会員の商業施設の協力で街頭防犯カメラの設置、運用を行っています。現在9台の防犯カメラを設置しています。こうした活動で、来街者が安心して過ごせる街になるよう地域として取り組んでいます。

## 5.天神交通戦略

また、まちづくりには交通のあり方は欠かせないと考えています。「歩いて楽しいまち」の実現に向けて、We Love 天神協議会では交通手段を①歩行者、②公共交通、③自転車、④自動車の4つのモードに分類して、その順番をまちづくりと親和性の高い優先順位と位置付けています。そして、①歩行者のために他の②から④までの交通手段がどうあるべきかということ「天神交通戦略」として策定し、年間を通して実践し検証しています。①歩行者向け施策としては、「まちなかベンチプロジェクト」として、「歩いて楽しいまち」の実現に向けて休憩空間の整備促進の実践を行い、将来的な休憩空間の質の向上のための枠組み構築をはかるべく行政と共働で取り組んでいます。具体的には、歩道や公開空地、公園にベンチやテーブルセット、およびカフェ等を設置し、休憩環境を整備するとともに、利用者調査によりニーズや今後の課題の把握に努めています。②公共交通向け施策としては、季節ごとに開催する集客イベントにおいて、公共交通利用を促進するための施策を行っています。具体的には、公共交通利用による来街者にイベントで販売する飲食チケットの割引を行ったり、イベント会場でブースやパネルを設置し、公共交通利用のメリットの訴求などを行っています。③自転車向け施策としては、福岡市市民局との連携により自転車の交通ルールの遵守とマナー向上を目的とした天神の各企業の従業員向けに自転車安全利用推進講習会の定期開催を行っています。④自動車向け施策としては、都心部の渋滞緩和を目的として、フリンジパーキングの実施を行っています。これは、お正月の初売り時やイベント開催などによる多客時に都心部周辺の公共施設の駐車場を利用してフリンジパーキングとし、自動車で来街の方向向けにフリンジパーキングへの駐車を推進するものです。駐車場から都心部までのバス乗車券(片道分)をお渡ししています。



まちなかベンチプロジェクト

## 6.来街者向けサービス

このほか、来街者向けサービスとして、ベビーカー無料貸出しやママ・パパマップの作成・配布などを行っています。ベビーカー無料貸出しは、We Love 天神協議会で保有する20台のベビーカーを各商業施設に設置し、そこで来街者に無料貸出しを行うもので、通常各商業施設で貸し出ししているベビーカーと異なり商業施設を超えた利用ができる、まさにエリア全体で利用できるものです。ママ・パパマップは、お子さま連れでも安心して過ごせるように各商業施設や公共施設等に設置されている授乳室やおむつ交換台、ベビーチェア設置トイレ、ベビーカー貸し出しなどを紹介するマップであり、これを継続して配布しています。

## 7.会員向け活動

地域全体でまちづくりに取り組むことを目的に、地域のコミュニティ醸成のために We Love 天神協議会の各会員企業のみなさんを対象とした活動を継続的に行っています。毎月第 2 木曜の朝に開催している「天神クリーンデー」は、出勤前に毎回 100 名以上のかたにお集まりいただき、街の一斉清掃を継続して実施しています。また、「天神まちづくり学科」では、まちづくりの人材育成をはかるため、若者を中心として開催している勉強会および実践体験です。このほか、天神の商業施設のインフォメーション担当や観光案内所の担当、ホテルのコンシェルジュなど各施設で案内サービスを行っている方々に集まっていただき、街の課題の共有と解決策の検討を行い天神のおもてなし力の向上を目的とした「天神コンシェルジュミーティング」の開催も定期的に行っています。このほか、会員企業の従業員に呼びかけ、浴衣姿で参加いただく「天神打ち水大作戦」、サンタの格好で街の賑わいづくりと発信を行う「天神サンタ大作戦」を行っています。さらに、全会員企業を対象とした街の勉強会や懇親会を定期的に開催する会員交流会を行っています。

## 8.財源獲得

年間を通したこうした活動を行っていくためには、当然ながら財源が必要となります。先に述べた各会員企業からの年会費や自治活動費、行政負担金、特定事業負担金だけでなく、今後も継続的に事業を行っていくためには、”自ら稼ぐ”ということが必要だと考えています。こうした自主財源の獲得のために、これまで行政や各関係機関との協議を経て、いくつかの自主財源メニューを実施しています。ひとつは那珂川河畔オープンカフェ事業というもので、川沿いの河川敷公園を福岡市から借受けオープンカフェを展開することで、運営を委託するカフェ事業者から売上の一部をまちづくり活動協力金として We Love 天神協議会に拠出いただいています。また、街の賑わいづくりとして公開空地の利活用を推進していますが、そのなかで公共性のあるイベントについては公開空地での物販を可能としています。その場合にイベント主催者等から売上の一部を We Love 天神協議会に拠出することを行政との協議により条件としています。今後も行政との協議を進めながら、新たな自主財源メニューの開発と実施を行っていきたいと考えています。

## 9.今後の展望

We Love 天神協議会は既成市街地である天神地区でまちづくり活動を行っています。しかし、これからは「天神ビッグバン」で大規模にビル更新が進んでいき、これに合わせて道路や公開空地などの公共空間も生まれ変わるようになります。こうしたハード整備と合わせて、We Love 天神協議会の賑わいづくりを中心としたソフト施策の再構築が必要だと考えています。「歩いて楽しいまち」の実現に必要なハードとソフトを行政や警察、地域と協議しながら、もっと元気で明るく魅力的な街に発展していくよう取り組みを進めていきたいと考えています。

### ■筆者略歴

昭和 42 年生まれ、福岡県出身。平成 2 年 3 月、九州大学経済学部卒業。平成 2 年 4 月、西日本鉄道(株)入社。情報システム部、広報室、(株)ニモカ、ホテル事業部を経て、現在、天神委員会課長と We Love 天神協議会事務局長を兼務。

---

発行元・問合せ先 公益財団法人都市活力研究所  
〒530-0011 大阪市北区大深町 3 番 1 号  
グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7F  
TEL 06-6359-1322/FAX 06-6359-1329